

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】 宮下 陽子

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院 総合文化研究科 地域文化研究専攻 博士課程

【研究題目】

現代トルコの政治変遷-イスタンブル有権者の投票行動と選出議員の分析から-

【研究の目的】

本研究は、世俗主義の実践や民主主義の定着を含め、現代中東を理解する上で必須であるにも拘わらずイデオロギー研究が中心に行われてきた現代トルコ政治研究を、政党研究、政治エリート研究、有権者研究の観点から複合的に行うことを目的とする。議会制民主主義がまがりなりにも定着し、総選挙による政権交代が行われてきたトルコにおいて、議員の定数の1割弱がイスタンブル選出の議員であり、その有権者の投票行動の変化はトルコの政治に大きな役割を果たしてきたと考えられるからである。本研究では国会議員と政党組織、そして選挙区の結び付きを実証的に考察することにより、イデオロギー色の強い世俗主義政党からイスラーム主義政党への与野党の逆転によって認識されてきた1983年以降の第3共和制下のトルコ政治の変遷を、政治エリートや有権者の投票行動の変化の考察も踏まえることにより、新しい分析軸をもたらすことを目的とする。

【研究の内容・方法】

本研究では、英語や日本語でなされた投票者の投票行動研究を踏まえ、国家統計局(DİE)が発行している全国の人口統計にて、地方からイスタンブルへの人口流入を確認する。また、イスタンブル市が発行しているデータより、市内の人口分布や市を形成する区の拡大を明らかにする。以上の2点を照合することにより、市内の地区を、流入した人々によって構成される地区(便宜上①とする)と、第3共和制期以前からの住人によって構成されている地区(便宜上②とする)の両者にまず分類した。次に、DİEが発行する選挙データのうち、第3共和制下で実施された1983年、87年、91年、95年、99年、2002年のデータを活用した。これらではイスタンブル市を構成する区レベルでの政党別得票率が公表されているのでこれを参照し、①及び②での投票行動を確認した。これにより、有権者の投票行動から住民の特徴と関連付けた。また、出身地や学歴も含む、詳細な略歴が網羅された国会議員の名鑑(*TBMM Albümü*)よりイスタンブル選出の議員を確認し、彼らとイスタンブルとの関わりの有無について確認した。更に、政党の地方支部と国会議員との繋がり有無について確認するため、県議会の議員名を政党別に網羅した資料(*Gülşen Gündüz and Mustafa Üstuna, Siyaset Rehberi 1 Demokrasi'de 50 Yıl (1946-1996)*, Ankara: Usta Matbaacılık)を活用し、第3共和制期におけるイスタンブル出身の国会議員のうち、県議会の出身者の有無を確認した。これは、党中央組織の次に位置し、地方組織の最上位にあたる県支部の有力者は県議会議員になる可能性が高いと考えたためである。以上の方法により、イスタンブル選出の国会議員を特定し、その性質を、地方との関係も含め確認する。

【結論・考察】

イスタンブールの拡大は 60 年代のトルコにおける産業化・工業化の発展と同じく中央から周縁に向かって始まり、第 3 共和制期以降も続いた。有権者の投票行動では、①では、90 年代以降国内で支持を拡大しているイスラーム系政党への高い支持が示され、②では非イスラーム系政党である世俗主義政党または中道右派政党への支持が高かった。以上より、新興住宅街の発展とイスラーム系政党の躍進が平行であることが示された。選出議員においては、第 3 共和制期開始直後から 90 年代半ばまで支持を集めた中道右派諸政党は、党中央本部の定めた議員がそのまま立候補する傾向が強かったが、90 年代後半から現在に至るイスラーム系政党の議員は、地方議会での活動または選挙区での経済活動を経て立候補するケースが見られるようになった。これは、単に議員の経歴傾向の変化で片づけられるものではなく、現代トルコで推進されている産業化の流れと併せて考えることが可能であると思われる。

